

## EA ワークショップ「評価力を上げるための目的・計画の作り方」実施要項

### 1. 趣 旨

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構は、自己評価能力を向上させるための基本的な視点を学びながら、大学が抱える課題や問題を把握し、その解決方法を探りながら目的・計画を立案すること、さらには、こうした目的・計画に即した適切な指標の設定方法を学ぶために、本機構の EA (Evaluability Assessment) 研究会で開発している教材及びコンテンツを基に、ワークショップを開催しています。

今回は、教材の全行程（ステップ 1～3）のうち、ステップ 1「関係者の把握、課題・問題の分析」及びステップ 2「目的の整理、計画の作り方」を対象としたワークショップを開催したいと思います。また、事例教材（演習課題）も学生募集をテーマに新たに開発し、以前参加された方も、初めての方でも参加いただける研修会となっております。

### 2. 基本事項

- (1) 開催日時 平成 28 年 12 月 16 日（金） 10:30～17:30  
(受付は 30 分前から開始します。)
- (2) 開催場所 学術総合センター10 階  
大学改革支援・学位授与機構竹橋オフィス 1012 会議室
- (3) 定 員 30 名（先着順）
- (4) 参加費 無料

### 3. スケジュール

- 10:30-10:45 主催者挨拶及び趣旨説明
- 10:45-11:45 講義 1: EA ツールの紹介  
(11:45-11:55 休憩・座席レイアウト変更)
- 11:55-12:30 演習 1: ステップ 1 (前半)  
(12:30-13:30 昼食・休憩)
- 13:30-15:35 演習 1: ステップ 1 (後半) と結果発表  
(15:35-15:55 休憩)
- 15:55-17:10 演習 2: ステップ 2 と結果発表
- 17:10-17:20 グループワークの振り返り
- 17:20-17:30 総括
- 18:00-19:00 情報交換会 (会費制 2,000 円、任意参加)

### 4. 参加申込について

以下の URL にアクセスしていただき、必要事項をご記入の上、申込みください。

申込みフォーム [https://www6.webcas.net/form/pub/niad/ea\\_workshop](https://www6.webcas.net/form/pub/niad/ea_workshop)

※申込み期限：平成 28 年 11 月 22 日（火）

※定員になり次第締め切らせていただきます。

※必要事項について

- ① お名前（例：支援 太郎）
- ② ふりがな（例：しえん たろう）
- ③ 所属機関（例：大学改革支援・学位授与機構）
- ④ 所属部署（例：評価事業部評価企画課）
- ⑤ 役職・職名
- ⑥ 電話番号（半角、「-（ハイフン）」なし）
- ⑦ E-Mail アドレス（半角）

- ⑧ 情報交換会 参加の有無
- ⑨ 評価や計画との関わり（これまでの評価や計画との関わりについて、ご記入ください。班分けの参考にさせていただきます。）

【ツールの各段階と内容・獲得が期待されるスキル・研修内容】

段 階	EA 教材の内容	獲得することが期待されるスキル
	研 修 内 容	
ステップ 1 (今回のテーマ)	関係者（ステイ クホルダー）の 把握、課題の分 析	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自大学の現状と課題を体系的に整理するスキル</li> <li>○大学の諸活動の中から発見した課題及びその周辺にある関係情報との因果関係の整理するスキル</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係者を把握し、大学の諸活動から複数の課題を挙げ、その原因を考えつつ課題のグループ化をする。・あらかじめ設定した中心的な課題とグループ化した課題を関連づける。</li> </ul> <p>◇<u>中心的な課題及び複数挙げた課題の因果関係を明確にする。</u></p>	
ステップ 2 (今回のテーマ)	目的の整理、 計画の作り方	<ul style="list-style-type: none"> <li>○課題の因果関係を整理し、解決・改善へアプローチするスキル。</li> <li>○目的系図を作成し、計画アプローチを見い出すスキル。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ステップ 1 で分析した「課題（こういう原因でこういう課題が発生している）」を「これをやれば（手段）この課題が解決できる（目的）」のようにリバースして、目的系図を作成する。</li> </ul> <p>◇<u>課題が適切に関連づけられた目的系図は「改善計画」を見い出しやすくなる。</u> ◇<u>解決と改善のアプローチを見い出す。</u></p>	
ステップ 3	指標デザインと データの整理	<ul style="list-style-type: none"> <li>○計画実施において必要となる指標を適切に見い出すスキル。</li> <li>○見い出した指標の現況を把握し企画を実行させるスキル。</li> <li>○見い出した指標を用いて達成管理をするスキル。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ステップ 2 における改善計画を現実化すると、どの指標がどのような状況になるのか考える。 (課題は「目的→手段」という単位で最初に整理をしているため、この単位ごとに指標を考えていく。)</li> </ul> <p>◇<u>見い出した指標の状況により改善計画の進行（達成）管理をするという、評価担当者の責務を果たすためのヒントを見い出す。</u></p>	
ステップ 4 [ツール構築中]	効果的・効率的 な評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>○評価の目的を明確にし、協力体制の構築や評価結果を有効に活用するためのマインドセットに繋げるスキル</li> </ul>